

患者図書室による健康医療情報サービス： 病院による公開講座での 資料展示の実践を事例として

阿久津 達矢（慶應義塾大学大学院）

用語の整理

病院図書室

- **医療従事者**に**医学・医療情報**を提供する図書室¹⁾
(医療法第22条により地域医療支援病院に設置義務化)

患者図書室

- **患者・家族・一般市民**に**健康・医療情報**を提供する目的で病院内に設置されている図書室¹⁾
- インフォームド・コンセントの支援を情報提供の側面から行うことを主たる目的とする

1) 山口直比古「病院の図書室：病院図書室と患者図書室, そしてその先へ『情報の科学と技術』 vol.66, no. 9, 2016, p. 467-472.

患者図書室の概況

- 全国の病院に患者図書室は147ある
(2016年現在 全国患者図書サービス連絡会) ¹⁾

- 近年は、患者を中心とした医療の推進が背景にある ²⁾
 - ◆ 医療における情報の重要性の認識
 - ◆ 医療法の改正
 - ◆ 病院機能評価の導入

1) 全国患者図書サービス連絡会「全国の患者図書室リスト」http://kanjatosho.jp/the_list.html

2) 山口直比古「病院の図書室：病院図書室と患者図書室, そしてその先へ『情報の科学と技術』 vol.66, no. 9, 2016, p. 467-472.

先行研究（1）

- 事例報告が多数ある
アンケート調査を中心に、患者図書室の設置体制やサービス、運営体制の多様性を明らかにすることが主眼である

- ◆ 菊池佑（2001）¹⁾
1970年から複数回にわたり運営体制を調査し、
病院のタイプ別（総合病院、精神病院 etc.）に整理

1) 菊池佑『病院患者図書館：患者・市民に教育・文化・医療情報を提供』出版ニュース社, 2001, 366p.

先行研究（2）

- 患者図書室の多様な患者支援機能への注目
図書室内に限定された視点から、病院内の一部署としての
図書室へと図書室の捉え方を拡張

- ◆ 桂ほか（2018）¹⁾
調査により、患者図書室が病院内で果たす患者支援機能を整理
患者の知る権利の保障などの6つに分類

1) 桂まに子ほか「患者支援機能から見た患者図書室の多様性」『2018年度日本図書館情報学会春季研究大会発表論文集』2018, p. 43-46.

先行研究から見える課題

- 患者図書室のサービスや形態の多様性を指摘するものが多くある一方で、そうした施設が病院内で果たす多様な役割に目を向ける研究も存在
 - 患者図書室では具体的なサービス実践（展示やレファレンスサービス）がなされており、その一般的な理念や実践例をまとめた解説¹⁾ などはあるが、具体的なサービス実践それ自体がいかになされているのかを研究したものはなく、サービスの内実は明らかになっていない

1) 日本医学図書館協会医療・健康情報ワーキンググループ編著、『やってみよう図書館での医療・健康情報サービス. 第3版』 日本医学図書館協会, 2017, 191p.

本研究の目的

- 患者図書室の情報サービス実践の一端を明らかにする
 - 病院内の公開講座での資料展示の実践を事例として取り上げる
- 健康医療・情報サービスの内実の一部を詳らかにすることができ、今後のサービスを考えるための基盤ともなり得る

本研究の立場

■ エスノメソドロジー (Ethnomethodology) ¹⁾

- ◆ 人々の活動は、実践的な関心事に基づいて、互いに理解可能な形で、自己組織的になされている
 - 展示は、その組織を行う司書が、講座の参加者へ情報サービスを行うという実践的な関心事に基づいており、そのためのあらゆる実践は、活動全体に対して情報サービスの遂行に志向した一貫性を持っている

- ◆ 人々は、活動を状況に埋め込まれた具体的な実践を行うことによって遂行している
 - 司書は、展示という活動を、病院内の公開講座において展示を組織するという状況（文脈）の中で、それに関わる様々な具体的な実践（講座のテーマに即した資料の選択、ブックリストの作成など）を行うことによって遂行している

- ある現象とそれを遂行するための「方法」（ある現象を成り立たせるやり方）は常にむすびついて存在しており、そのむすびつきを切り離さずに捉える点で事例報告や理論化とは異なる立場 ²⁾

1) Sharrock, W. "Fundamentals of Ethnomethodology". George Ritzer and Barry Smart eds. *Handbook of Social Theory*. Saga, 2001, p. 249-60.

2) 池谷のぞみ「実践的構成物としてのビジネス支援サービス-サービスを理解することの方法的意義」池谷のぞみほか編『図書館は市民と本・情報をむすぶ』。勁草書房, 2015, p. 1-11.

本研究の調査・分析

- 対象：大学病院内に設置されている患者図書室
- 場面：患者図書室による病院の公開講座での展示と
司書によるその組織
- 期間：2019年から2020年現在までの約1年間
- 方法：展示に向けた司書の活動の参与観察、および実際の講座
への2回の参加と観察によるフィールドノートの作成
司書へのインタビュー調査と関連資料の入手
- 分析：エスノメソドロジーの方針により上記のデータをもとに分析

患者図書室の情報サービス

■ 患者・家族・一般市民への健康・医療情報の提供

→ 情報提供による意思決定の支援

◆ 医学的に最新で、信頼できる質の高い情報の提供

◆ 利用者の意思決定に資すると考えられる多様な情報の提供

対象とした患者図書室における情報サービス

■ 図書室の内部での情報サービス¹⁾

- ◆ 司書とボランティアによるレファレンスサービス
- ◆ 一般向けの健康・医療情報資料、医学生や看護学生向けの教科書、医師を対象とした専門書など様々な情報源の整備による情報提供

■ 図書室の外部での情報サービス

病院内の公開講座（一般市民を対象に年10回程度）での展示

- ◆ 司書が開催される講座のテーマに即した資料を選択する
- ◆ 資料を紹介するブックリストを作成する
- ◆ 実際に資料を会場で展示する

→ 「キュレーション」²⁾の実践

1) 阿久津達矢「病院組織における患者図書室：フィールドワークに基づく探索的検討」『2019年度三田図書館・情報学会研究大会発表論文集』2019, p. 37-40.

2) 池谷のぞみ「実践的構成物としてのビジネス支援サービス-サービスを理解することの方法的意義」池谷のぞみほか編『図書館は市民と本・情報をむすぶ』. 勁草書房, 2015, p. 1-11.

実際の展示資料 (6冊)



(発表者による撮影)

「肝臓がん」についての公開講座での展示資料

『肝臓病：ウイルス性肝炎・肝臓がん・肝脂肪・肝硬変』 泉並木, 主婦の友, 2019

『肝炎・肝硬変・肝がん』 土本寛二監修, 高橋書店, 2018

『おかずレパートリー-脂肪肝・非アルコール性脂肪肝炎・アルコール性肝炎：70レシピ』 加藤眞三ほか, 女子栄養大学出版部, 2018

『脂肪肝・NASH・アルコール性肝炎の安心ごはん:肝臓の数値が異常と言われたら』 加藤眞三ほか, 女子栄養大学出版部, 2015

『C型肝炎・B型肝炎・脂肪肝・肝硬変・肝がん：治療が大きく変わった！』 泉並木総監修, NHK出版, 2016

『NAFLD/NASH 診療ガイドライン』 日本消化器病学会編, 南江堂, 2014

講座の概要から情報を得る

■ 病院の事務部門が作成した病院HPでの開催告知や送付されてくる概要

テーマ：【こんな人は肝臓がんに注意～肝臓がん撲滅を目指して～】

◆ 講座がテーマとする病気や疾患は何か

→ テーマは「肝臓がん」とその原因、予防、早期発見、治療

◆ 講演者は何を話題にしようとしているのか

→ 近年問題となっている原因である「非アルコール性脂肪性疾患（NAFLD）」

資料検索のための「キーワード」を用意する

■ 「肝臓がん」についての蔵書検索を行うための「キーワード」

「肝臓がん」, 「肝炎」, 「肝硬変」

「非アルコール性脂肪性肝疾患」, 「NAFLD」

上記の5つを用意。概要の記述から直接引き出す。

※司書が経験や知識をもとに「キーワード」を追加する場合もある

「キーワード」をもとに資料を検索する

■ 大学のOPACを使用して、図書館の蔵書検索を行う

◆ それぞれの「キーワード」を用いて検索を実施

「肝臓がん」 → 2件

「肝炎」 → 9件

「肝硬変」 → 6件

「非アルコール性脂肪性疾患」 → 1件

「NAFLD」 → 1件

合計で19件の検索結果を得た

展示候補となる資料を選定する

■ 検索結果から「ノイズ」を外し、展示候補の資料を選定

◆ 司書が主に参照するのは以下の2つの「基準」

- ① 資料と講演テーマとの「一致性」
- ② 資料の「新規性」

※ 資料の「信頼性」は蔵書構築時にクリア

展示候補の資料

(検索結果19冊から「ノイズ」を外した10冊)

『肝臓病：ウイルス性肝炎・肝臓がん・肝脂肪・肝硬変』 泉並木, 主婦の友, 2019

『肝炎・肝硬変・肝がん』 土本寛二監修, 高橋書店, 2018

『おかずレパートリー脂肪肝・非アルコール性脂肪肝炎・アルコール性肝炎：70レシピ』 加藤眞三ほか, 女子栄養大学出版部, 2018

『おかずレパートリー慢性肝炎・肝硬変：64レシピ』 加藤眞三ほか, 女子栄養大学出版部, 2018

『肝炎のすべてがわかる本：C型肝炎・B型肝炎・NASHの最新治療』 泉並木, 講談社, 2017

『C型肝炎・B型肝炎・脂肪肝・肝硬変・肝がん：治療が大きく変わった！』 泉並木総監修, NHK出版, 2016

『脂肪肝・NASH・アルコール性肝炎の安心ごはん:肝臓の数値が異常と言われたら』 加藤眞三ほか, 女子栄養大学出版部, 2015

『肝硬変診療ガイドライン』 日本消化器病学会編, 南江堂, 2015

『患者さんと家族のための肝硬変ガイドブック』 日本消化器病学会編, 南江堂, 2011

『NAFLD/NASH 診療ガイドライン』 日本消化器病学会編, 南江堂, 2014

講演テーマに一致した資料を選定する

① 資料と講演テーマとの「一致性」

資料を講座のテーマ、講演者の提供する話題に沿って選ぶ

「肝炎」という「キーワード」で検索した場合

◆ 『肝炎・肝硬変・肝がん』

→ 書名から「肝臓がん」のテーマに即していることがわかる

◆ 『患者さん・ご家族のための自己免疫性肝炎（AIH）ガイドブック』

→ 「自己免疫性肝炎」に焦点があるため候補からは外す

「新しい」資料を選定する

② 資料の「新規性」

医学的に最新の資料を選定する

- ・ 資料の「新規性」は「診療ガイドライン」の改訂頻度に基づいて判断する
- 「診療ガイドライン」は概ね5年毎に改訂
- 蔵書の収集・除架はその頻度を目安として行なっており、選定する資料も原則5年以内とする
(※有用であると思われた資料はこの限りではない)

「肝臓がん」のガイドラインは4年毎に改訂されており、検索結果は概ね2015～2020までのもので、科学的な「新規性」がある

候補の資料から展示資料を決定する

- 資料を書架から取り出し現物を見て決定
 - ◆ 資料紹介のために作成する配布用ブックリストとともに展示
 - ◆ ブックリストには図書室の利用案内も載せるため展示は6, 7冊程度とする

- 資料の決定
 - 候補のうち、よりテーマに即した、より医学的に新しい資料を、
司書が講座の参加者に向けて、資料のタイプと配分を考慮して選択

実際の展示資料（6冊）

『肝臓病：ウイルス性肝炎・肝臓がん・肝脂肪・肝硬変』 泉並木, 主婦の友, 2019

『肝炎・肝硬変・肝がん』 土本寛二監修, 高橋書店, 2018

『おかずレパートリー脂肪肝・非アルコール性脂肪肝炎・アルコール性肝炎：70レシピ』 加藤眞三ほか, 女子栄養大学出版部, 2018

『おかずレパートリー慢性肝炎・肝硬変：64レシピ』 加藤眞三ほか, 女子栄養大学出版部, 2018

『肝炎のすべてがわかる本：C型肝炎・B型肝炎・NASHの最新治療』 泉並木, 講談社, 2017

『C型肝炎・B型肝炎・脂肪肝・肝硬変・肝がん：治療が大きく変わった！』 泉並木総監修, NHK出版, 2016

『脂肪肝・NASH・アルコール性肝炎の安心ごはん:肝臓の数値が異常と言われたら』 加藤眞三ほか, 女子栄養大学出版部, 2015

『肝硬変診療ガイドライン』 日本消化器病学会編, 南江堂, 2015

『患者さんと家族のための肝硬変ガイドブック』 日本消化器病学会編, 南江堂, 2011

『NAFLD/NASH 診療ガイドライン』 日本消化器病学会編, 南江堂, 2014

展示する資料のタイプと配分

- ① 病気や治療法についての「一般的」な内容を扱った資料、約2, 3冊
- ② 病気や治療法についての「個別的」な内容を扱った資料、約2, 3冊
- ③ 「診療ガイドライン」や医療者向けの「専門的」な内容を扱った資料、約1冊

病気や治療法についての「一般的」な内容を扱った資料 23

『肝臓病：ウイルス性肝炎・肝臓がん・肝脂肪・肝硬変』 泉並木, 主婦の友, 2019

『肝炎・肝硬変・肝がん』 土本寛二監修, 高橋書店, 2018

『C型肝炎・B型肝炎・脂肪肝・肝硬変・肝がん：治療が大きく変わった！』 泉並木総監修, NHK出版,
2016

- ◆ 参加者にとって手に取りやすい（文字の大きさなど）と思われる、テーマの病気や治療の概要について包括的に説明している資料
- ◆ 様々な立場にある参加者に広く当てはまる、基礎的なトピックに関する情報

病気や治療法についての「個別的」な内容を扱った資料 24

『おかずレパートリー 脂肪肝・非アルコール性脂肪肝炎・アルコール性肝炎：70レシピ』加藤眞三ほか, 女子栄養大学出版部, 2018

『脂肪肝・NASH・アルコール性肝炎の安心ごはん:肝臓の数値が異常と言われたら』加藤眞三ほか, 女子栄養大学出版部, 2015

◆ 特定のトピック（食事など）を掘り下げた、ある特定の範囲に特化した情報

「診療ガイドライン」や医療者向けの「専門的」な内容を扱った資料

『NAFLD/NASH 診療ガイドライン』日本消化器病学会編, 南江堂, 2014

- ◆ テーマとなる病気や治療法についての発展的なトピック（内容）の情報

■ 講座の参加者（患者・家族・一般市民）への情報サービス

→ 参加者への情報提供と意思決定の支援

- ◆ 参加者が複数の情報を組み合わせて利用できるようにし、病気や疾患を多角的に理解することができるようにする
- ◆ 病気や疾患の状態、適合する治療や療養法などが個々に異なるであろうと想定される参加者が、参加者自身のそれぞれの実情に合わせて情報を選択できるようにする

参加者に多様な情報を提供する①

■ 多角的な理解を可能にするための資料提供

- ◆ 司書は、「一般的」、「個別的」、「専門的」という3つのタイプの資料を提供することで、参加者が複数の資料を組み合わせて利用できるようにしており、ある病気やその治療法について、それぞれ基礎的なトピック、ある特定のトピック、発展的なトピックを理解し、病気や治療を多角的に把握することが可能になるように展示の構成をデザインしている

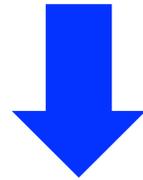
参加者に多様な情報を提供する②

- 参加者自身による情報の選択を可能にするための資料提供
 - ◆ 司書は、3つのタイプの資料を提供することに加えて、全体で6、7冊、タイプ別に複数の資料を提供することで、病気の状態や適合する治療法が個々に異なると想定される参加者が、参加者自身のそれぞれの実情に合わせて情報を選択することが可能になるように展示の構成をデザインしている

まとめ (1)

■ 司書による講座のテーマに合わせた資料の選択

参加者が、テーマに関する医学的に新しい情報を基に病気や治療法を多角的に理解し、自分自身で情報を選択することが可能になるように「一般的」、「個別的」、「専門的」という3つのタイプの資料を複数冊選択し、多様な資料を提供している

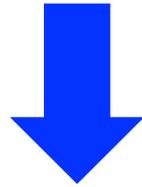


司書による資料の選択は、展示において患者・家族・一般市民に健康・医療情報を提供するというサービスを行うための実践的行為であり、情報サービスを遂行するためのひとつの「方法」になっている

まとめ (2)

■ エスノメソドロジーによる実践の分析と記述

展示においていかに参加者（患者・家族・一般市民）に情報を提供するかという司書の実践的関心事に基づく具体的な現象と、そうしたサービスを遂行するための具体的な「方法」とを切り離さずに分析し、記述すること



ある現象とそれを遂行するための「方法」（ある現象を成り立たせるやり方）は、常にむすびについて存在しており、両者をもそのむすびつきにおいて捉えることによって、患者図書室による情報サービス実践それ自体の内実の一端を解明することができた

今後の課題

- エスノメソドロジーによる患者図書室の情報サービス実践のさらなる研究
 - ◆ 「キュレーション」の実践における活動
 - 参加者に向けた、ブックリストを用いた展示資料へのナビゲーション情報サービスにおける実践的行為としてのドキュメントのデザイン
 - ◆ 「キュレーション」を可能にしている蔵書構築のための選書活動